

子ども茶道に参加して

飯塚市立飯塚第一中学校一年（福岡県）

大塚 望夢

僕が茶道部に入っていると知ると、周りのみんなは驚いてもう一度僕に尋ねる。

「茶道部!?本当に?何で?」

幾度となく繰り返し返されてきたその問いに、今ではもう慣れっこになり、

「うん、茶道部、楽しいよ」

と言えるようになったが、最初のころは、女子ばかりの茶道部の中で男子一人の僕を好奇心の目で周りが見ているように、嫌だった。

茶道部のみんなとはいろんな話ができる。一方で、座り方や帛紗のつけ方、扇子や懐紙の大きさなど、女子とは少し違う男子の所作のお稽古をがんばっている。

そんな中で、顧問の先生から飯塚市が主催する「子ども茶道教室」にいっしょに参加しないかと誘われた。正座が苦手な僕は、最初は断ったが、子ども茶道教室では茶道を

ずっと続けている男の子と出会えることや、たくさんの方から茶道の先生方からわかりやすくご指導いただけることなどを顧問の先生から力説され、足のしびれの不安はあったが参加した。

中学校の茶道部しか知らない僕は、自分の町で、小さなころから茶道をしている子たちがいることに驚いた。長年茶道をしている中学生の男の子は、足がしびれる様子もなく、落ちついた動きや言葉づかいをしていて、僕の茶道イメージの規範となった。

新型コロナウイルス感染防止のため、最初はお点前の稽古ではなく、茶花を生ける学習が行われた。僕たちが学習できるように、茶道の先生方が茶花をたくさん持って来てくださった。僕は母の影響で花には興味があったが、茶室に生ける花々は、僕が初めて知るものが多く、とても勉強になった。花入と茶花を自分たちで選んで、一人一つ、思い思いに、自然なように生け、楽しかった。

緊急事態宣言が解除されたときには、お点前の稽古もあり、基本を丁寧に教えてくださった。お稽古についていくのに大変だったが、いつの間にか、足があまりしびれることなく、長い時間座れるようになった。

最終日には、両親を呼んで、僕のお点前を見てもらい、僕が点てた抹茶を飲んでもらった。両親に自分から何かをするなど、初めてのことで緊張したが、

「驚いた。うれしい。おいしい」

と言ってくれたので、よかった。

毎回、子ども茶道教室では、その回に学んだことや感想を書く時間があった。一番印象に残っているのは、八月の茶道教室で、先生方が戦争や平和について話をしてくださったことだ。

『お先に』『ありがとうございます』などの言葉、湯加減の調整など、相手を思いやる気もちや感謝や行動は、戦争をなくし、平和をつくるために大切なものです。茶室のここから、身近なところから、茶道で学んだことを、日ごろの人との関わりあいの中に生かしてください」と。

今学んでいる茶道と、日常生活や平和とのつながりがわかった気がする。